



よりよい 学級集団づくり 3つの視点

視点1

ルールとリレーション

視点2

集団と個

視点3

保護者との信頼関係

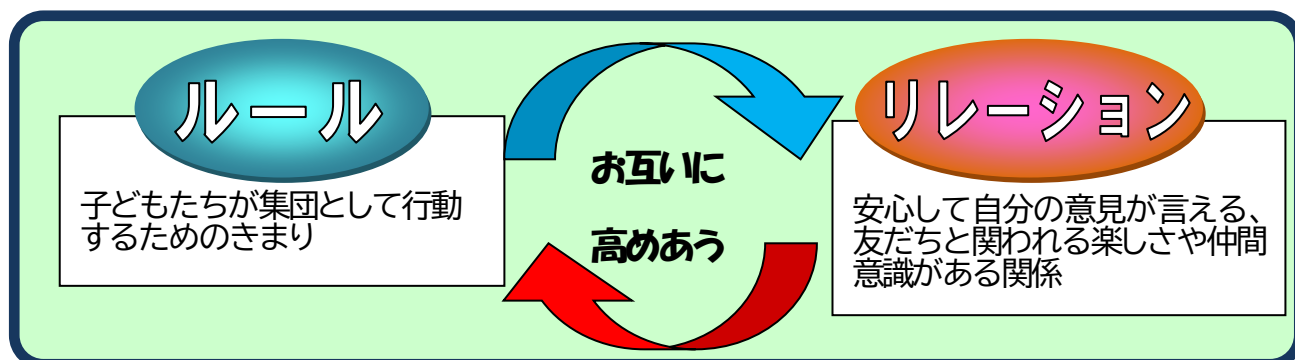


学級集団づくりを3つの視点から考え、
「すぐにできる簡単な手立て」を
ご紹介します。



1 よいよい学級集団では、ルールとリレーションが確立している！

よいよい学級集団では、子どもが安心して過ごすことができ、他者とのかかわりの中で自らの良さを発揮できます。言い換えると、子どもが安心して過ごすことができるための「ルール」と一人一人の違いを認め支え合える「リレーション」、この2つが確立していることがよいよい学級集団づくりでは、大切だと言えます。



ルールの定着を図るポイント

ルールは、みんなで一緒に活動するためのベースになります。次の3つを意識してみましょう。

1.ルールとその意義を確認

- ・ルールは具体的にできそうなことにする
- ・活動に入る前に確認する
- ・短時間の意識化を繰り返す
- ・掲示し視覚的に働きかける

2.ルールにそった行動をほめる

- ・ルールを守れている子たちをしっかり承認する
- ・ゲーム等の活動でルールを守って活動したら楽しかった経験をさせる
- ・逸脱行動に同調しがちな子をつくらない

3.逸脱行動には毅然と

- ・まずは間をとり、冷静になる
- ・簡潔に毅然と対応する
- ・丁寧な個別対応は授業外の場面です

注意！ やってしまいがちな教師のNG行動

- ・「このくらいは…」と見て見ぬふりをする
- ・「今日は特別…」等の特例を度々認める
- ・中途半端に対応してあきらめる
- ・必要以上の厳しい叱責をする
- ・授業中に逸脱行動を深追いし、頻繁に長々と授業を中断する

ルールの定着に向けた対応の具体例



授業がすぐにスタートできたら、活動時間がたくさん取れます。学習用具は休み時間のうちに机の上に出しておきます。

→短く、わかりやすく「ルールを守るよさ」を伝える。

今日は20人もできました。みんなで声をかけあって嬉しかったです。合格シールがたまったら、クラスでイベントをしようね！



→朝の会で確認し帰りの会で振り返る。目標が達成できたら、楽しい会を企画させるなどして、守ることを楽しさにしていく工夫する。



今の行動はルール違反です。すぐやめなさい。話がありますので、後で相談室に来なさい。

→わざと声のトーンを変えたり、間をとったりすることで場の雰囲気を変える。

ルールは小さなところからほころんできます。小さなことでも確実にやるという先生の姿勢を示すことが大切です。一部の子に指導している姿から周りの子も学んでいます。穏やかな先生だけと言うべきことは言う、ゆずらないラインはゆずらないのだと認識させるのです。

リレーションづくりのポイント

子どもが最も長い時間を過ごすのは授業です。特別なことをするのではなく、日々の授業でのかかわりを少し意識することで、リレーションづくりができます。

1. 教師の働きかけ

- ・発言やがんばり、よさを多面的に認める
- ・目立たない子の意見もとりあげる
- ・間違った答えも大事にする
- ・友達の意見にうなずいたり拍手したりするよう促す等

2. 場の工夫

- ・自分の考えをペアやグループ内で発表する活動を取り入れる
- ・授業の最後に、わかったことや感想、なるほどと思った友だちの意見を言う振り返りの場を設定する
- ・朝の会帰りの会で、子どもたち同士認め合える場を設定する
- ・一人一人に役割のある班活動を取り入れる等

3. ゲームやエクササイズなどの活用

- ・学級〇〇大会
- ・グループ対抗〇〇合戦
- ・サイコロトーキング
- ・ビンゴ 等

学級活動を利用して、学級の楽しいイベントを子どもたちの手で企画させたり、授業の導入、朝の時間・帰りの時間などを利用してゲームや構成的グループエンカウターのエクササイズに取り組んだりすることもリレーションづくりに有効です。

リレーションづくりに向けた取組の具体例

〇〇君、丁寧にノートとってるね。
〇〇さん、いい考えだね。みんなに発表してくれないかな。



→机間指導をしながら、目立たない子に個別に話しかけ、見守っていることを伝える。



今から、班で自分の考えを順番に発表してください。発表が終わったら、よかったところを伝えてください。
〇〇さんは、友達の隠れたいいところをしっかりと見ているね。感心したよ。

→できる子だけでなく、一人一人が注目され認められる場面を授業に盛り込む。
目立たない子を認める発言をしている子をほめる。

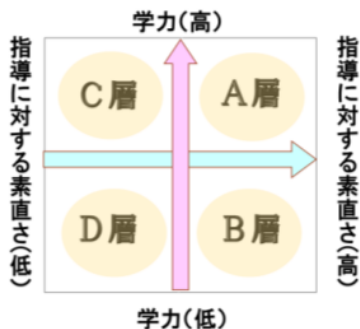
よーし、今から〇〇ゲームをするよ。
お隣とペアを組んで…



→ちょっとした時間を利用してできるゲームを取り入れる。
2人組4人組の少人数でできるものからがおすすめ。

コラム ターゲットはどこ?!

学級集団づくりでは、特別な配慮や支援を要する子どもと関係を作ることだけが大切なわけではありません。できるだけ多くの子どもから信頼を得ることが大切です。下の表は、学力と指導に対する素直さを軸にして、子どもをグループ分けした図です。



- A層: 学力は高く、教師の指導に素直
- B層: 学力は高くないが、教師の指導に中立か素直
- C層: 学力は高いが、教師の指導に反抗的
- D層: 学力は高くなく、教師の指導に反抗的



この中で、教師が支持を広げやすいのはどの層だと思いますか？

答えはB層です。

私たちは、つつい手のかかる子どもに目が行き個別対応に追われがちになってしまいます。しかし、B層には、まじめに勉強している子ども、

地道に頑張っている子どもがたくさんいます。B層の意欲を喚起し、自信をつけさせ、大切にすることが学級経営の安定につながっていきます。D層への対応だけが学級集団づくりではありません。

2 よいよい学級集団には、集団と個の視点がある！

個への指導・支援を必要とする子どもたちに対して適切な対応を行うためには、個への指導・支援を充実させるだけでなく、全ての子どもたちを大切にできる学級づくりや、どの子にも分かりやすい授業づくりを行うことも大切です。つまり、よいよい学級集団をつくるためには、「特別支援教育の視点」を取り入れながら、集団への指導・支援と個への指導・支援の2つの視点をもって取り組むことが重要です。

ここでは、2つの視点のうちの個への指導・支援に焦点を当て、3つのポイントを踏まえた適切な指導・支援の在り方についてご紹介します。

学級集団づくり



集団への指導・支援

すべての子どもを大切に する学級づくり

- みんなが安心して過ごすことができる学級づくり
(ルール)
- 一人一人の違いを認め、
支え合う学級づくり
(リレーション)

※P1～2参照

どの子にも分かりやすい 授業づくり

- 取り組みやすい学習環境の工夫
- 一人一人の学び方の違いに
考慮した授業づくり

個への指導・支援

苦手なことも得意なこと とも支える

- 子ども一人一人の理解
- 困難さを軽減するための
支援や配慮
- 「認める」「ほめる」機会
の拡充



自尊感情の向上

自尊感情を向上させることは、二次的障害の予防にもつながります！



個への指導・支援を行うに当たっては、学級(教科)担任が一人に対応できることと、できないことを整理した上で、一人での対応が難しいことについては他の職員の協力を得る等、学校全体として対応する(校内支援体制を整える)ことが大切です。

★個への指導・支援 3つのポイント★

ポイント1：子ども一人一人を理解する

★子どもの姿を肯定的に捉えましょう！

○行動の背景を考えましょう。

・些細なことでケンカをしてしまう → 登校前に家庭で強く叱られた、自分の思いを言葉でうまく伝えることが難しい

・授業中にたびたび離席してしまう → 注目してほしい、授業内容がわからない

○得意なこと、苦手なことの両面を把握しましょう。

・聞いて理解するより、見て理解する方が得意 → 視覚支援の活用

○子どもの見方を変えましょう。

・「～ができない」→「～ならできる」「～の手立てがあればできる」



ポイント2：困難さを軽減するための支援を行う

★苦手な部分を補う視点で具体的な支援策を考えましょう！

<支援の例>

【授業中、たびたび離席する】

→ 着席する目標時間を短く設定して段階的に伸ばしていく、異なる課題を個別に準備する、しばらく見守り自分から席に戻ったときにすかさずほめる 等

【勝つことへのこだわりが強く、負けを受け入れることができない】

→ 活動の前に「負けそうになっても最後まで活動する」ことを確認する、勝ち負けのある単純なゲームを計画的に行い、負けを受け入れることができる経験を増やす 等

【相手が傷つくことを言ってしまう、トラブルになることが多い】

→ 落ち着いた後に、図や絵を用いてトラブルになった原因を一緒に考えたり、適切な言葉遣いや行動の仕方を具体的に教えたりする 等

【音読が苦手】

→ 漢字にふり仮名を付ける、文節毎に「／」を入れる、読む行に定規をあてる 等

【読解が苦手】

→ 文章に関係のある絵や写真を提示する、キーワードを囲む 等

【筆順に沿って漢字を覚えることが苦手】

→ 漢字の構成要素に分ける(台はムと口)、絵と関連付ける(山と山) 等

【計算が苦手】

→ 計算の手順を言語化した手順表を活用する、筆算がしやすいマス目入りのワークシートを準備する 等

ポイント3：「認める」「ほめる」機会を拡充する

★「認める」「ほめる」視点を持ちましょう！

○取組の過程やその子なりの努力を評価しましょう。

・「自分から席に戻れたね」「友だちと一緒に机を運べたね」「道具を元の場所に戻せたね」

○その子の得意なことで、認められる場面をつくりましょう。

・「地名博士の〇〇さん、みんなに〇〇県の県庁所在地を教えてくださいませんか？」



3 よいよい学級集団には、保護者との信頼関係がある！

よりよい学級集団をつくるためには、学級経営への保護者の理解と協力が不可欠です。そのためには、保護者との信頼関係が重要となります。これからの教師には、保護者の信頼を十分に得ながら実践をしていく役割が求められます。そのためには、保護者とつながるためのベースをしっかりとった上で、日頃より次の2つことが大切となります。

『保護者との信頼関係づくり』2つのポイント！

1. 先手の対応

【先手1】

保護者の方にあつた時、こちらから**すぐにあいさつ**をしましょう！



【先手2】

子どもが「欠席した時」「けがをした時」「様子が気になった時」、その日のうちに、**すぐに連絡**しましょう！

【先手3】

何かあってからではなく、何か起きそうな時は、先に**情報を提供(連絡)**しましょう。



2. 情報の活用

【情報1】

学級での教育活動について、「何を」「何のために」「いつ」「どのように」取り組んでいるかを伝えましょう！

【情報2】

保護者があまり見ることのできない**日常の学級や子どもの様子**を伝えましょう！



【情報3】

学期の区切りや大きな行事のあと等、**節目ごとに子ども達の成長の様子**を伝えましょう！



保護者とつながるためのベースとなるもの

①「子どもの成長」を中心において保護者とつながりましょう！

保護者は、子どもの将来を思って子育てをされています。ですから、「子どもの成長のために一緒に考えましょう。」という姿勢をベースにした対応が必要です。

② 足を運び、顔をあわせてコミュニケーションをとりましょう！

気持ちがつながるのは、やはり顔をあわせてのコミュニケーションです。フットワークの軽さは大切です。

③ すべての子どもに情熱をもって指導や支援する姿勢を基本としましょう！

当たり前のことですが、わたしたち教師の一番の役目は子ども達の教育です。まず、日々の生徒指導や授業を熱心にやることがベースにあってこそ、保護者とつながることができるのではないのでしょうか。



【コラム】保護者からクレームがあった時、基本の「4つのステップ」

- ① 保護者の怒り、不信の感情を「受け止める」
- ② 教師が行った対応を「説明する」
- ③ どのような対応を教師に期待していたかを「質問する」
- ④ 教師と保護者が連携して対応していくことを「確認する」



『保護者との信頼関係づくり』に向かう対応の具体例！

【ケース①】朝の時間、知らない保護者さんが職員室にられました。その時、あなたは…？

……………。
(自分のクラスの保護者さんじゃないから、対応は教務の先生に任せよう。)



おはようございます。
何かご用でしょうか？

誰にでも、まず気持ちのいいあいさつ！それが信頼関係づくりの第1歩！

【ケース②】元気だけど忘れ物が多いAくんの保護者の方が、PTAの仕事で学校に来られているところにバッタリ会いました。その時、あなたは…？

こんにちは。
Aくん、今日もノートを忘れて
ましたよ。持ち物の点検をよろ
しくお願いします。



こんにちは。
Aくん、今日も元気に友達と楽しそうに
サッカーをしていましたよ。

**まず、学校で子どもががんばっていることを、伝えましょう！
我が子をほめられて、いやな気持ちになる方はいません！**

【ケース③】学級でトラブルがあって、事情を知っているBくんを放課後残して話を聞きます。時間がかかりそうですが、Bくんは「遅くなくても大丈夫！」と言っています。その時、あなたは…？

遅くならないかもしれない
し、Bくんも連絡しないで大丈夫
と言ってるから、保護者に電話
しなくていいか…。



もしもし、今日、学級で〇〇〇な事があ
って今からBくん事情を聞かせてもらおうと
思っています。すみませんが、帰りが遅くな
るかもしれません。よろしいでしょうか？

**予定外のことが起きた時は、保護者の気持ちを予測して、不信
感をもたれないように早めに伝えて対応しましょう！**

【ケース④】休み時間はいつもCくんとDくんは、ふざけて楽しそうに遊んでいます。ある日、Dくんのお母さんが、「うちの子がCくんからいじめられている！」と相談にられました。その時、あなたは…？

ふざけているだけです。いつも
二人で仲よく遊んでいますから。
一応、気にかけて様子を見ます。
そして、何かありましたら連絡しま
す。



いつも二人で仲よく遊んでいるよう
ですが何かあったのですね。詳しく聞
かせてください。
子ども達からも詳しく話を聞きます
ね。その上で、なるべく早くお母さん
に連絡します。

**安易に「いじめの有無」を決めず、保護者からは「どんな出来事があって、どう感じているか」
をまず聴きましょう。そして、「事実確認」と「説明」をスピード感をもって行いましょう。
いじめの問題は、必ず複数（管理職を含む）で対応しましょう！**

■参考資料

- 河村茂雄編 『教師のための失敗しない保護者対応の鉄則』学陽書房
- 河村茂雄編 『集団を育てる学級づくり』図書文化社
- 岡山県総合教育センター 『通常の学級における特別支援教育の視点から見た学級経営・授業づくり』平成 21 年3月
- 鳥取県教育委員会 『通常の学級における特別支援教育 ～小学校・中学校編～』平成 23 年3月
- 山口県教育委員会 『通常の学級における特別支援教育充実のために 小・中学校版』平成 26 年3月
- 『月刊生徒指導6月号学事出版編』平成 26 年4月

■参考となるホームページ

- 国立特別支援教育総合研究所（発達障害教育情報センター）
- 生徒指導リーフ Leaf2「絆づくり」と「居場所づくり」、Leaf3「発達障害と生徒指導」（国立教育政策研究所）
- 児童生徒一人一人が居心地のよさを感じる学級集団づくり（佐賀県教育センター）
- 保護者対応リーフ（佐賀県教育委員会）

あとがき

国立教育政策研究所からだされた『学級運営等の在り方についての調査研究報告書』では、学校現場において、児童生徒の学習意欲の低下や、規範意識の希薄さ、学級が集団としてうまく機能しない状況が一部で問題となっていることが報告されています。その中で、「学級経営をめぐる問題の現状とその対応」ではこれからの取り組みのポイントとして、「子どもの実態を踏まえた魅力ある学級づくり」「保護者などとの緊密な連携と一体的な取り組み」を提言しています。また、その状況の背景や要因として、「子どもの集団生活や人間関係の未熟さ」「特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応の問題」「家庭・地域社会の教育力の低下」などをあげています。

そこで、西部障教育事務所では、「学級集団づくり」を、「ルールとリレーションの確立」「個と集団」「保護者との連携」の3つの視点で見直し、解決の具体策を考え、このパンフレットを作成しました。このパンフレットを足がかりにしてよりよい学級集団づくりが各学校で一層進められるよう、これからも学校支援に取り組んでいきたいと思います。

学級集団づくりパンフレット よりよい学級集団づくり3つの視点 初版

発行日 平成26(2014)年10月1日
令和6(2024)年10月18日改訂
発行所 西部障教育事務所
〒843-0023 佐賀県武雄市武雄町昭和265
TEL 0954(23)3332